



# 働きやすい 保育の職場 環境づくり

事務改善事例集



制作：三重県  
2021年3月発行

三重県 子ども・福祉部 少子化対策課  
Tel059-224-2404 Fax059-224-2270  
E-mail:shoshika@pref.mie.lg.jp

三重県保育士・保育所支援センター「みえのほいく」の  
ホームページで事例を紹介しています



三重県では、保育に対するニーズと関心が高まる中、保育士の確保が大きな課題となっていることを踏まえ、保育現場の「働きやすい職場環境づくり」を推進しています。

保育所においては、子どもたちの安全確保に加え、保育の「質」の向上に向けた取組が期待される中、保育士が行う「保育業務」以外の業務量が増加しています。保育士の皆さんは子どもたちの保育を行いながら、膨大な事務作業が求められるなど厳しい労働環境となっており、「働きやすい職場環境づくり」を進めていくためには、保育現場の事務作業の軽減、効率化に取り組む必要があります。

そこで、保育現場の事務作業を、より効果的、効率的に進めるやり方を定着させるため、令和2年度に6つのモデル保育所へ働き方改革コーディネーターを派遣して、現場の保育士の皆さんと一緒に効率化できる事務作業を洗い出し、ICT等も活用しながら、改善策や効率化の方策を検討しました。

この事例集では、モデル保育所で実践したさまざまな事務改善の取組を紹介していますので、それぞれの保育現場に応じた「働きやすい職場環境づくり」を進める参考としていただければ幸いです。

令和3年3月 三重県子ども・福祉部

### 保育所での事務改善の3つのPoint

#### ① ICTの活用に向けた環境づくり IC

- ・ICTを保育現場に導入するメリットを職員全員で共有する
- ・苦手意識を持つ職員をみんなでサポートする など

#### ② 職員間のコミュニケーションの活性化 C

- ・各職員の業務を見える化し、互いにサポートして支えあう
- ・悩みや相談したいことを気楽に話せる職場づくり など

#### ③ 業務の見直し G

- ・当たり前と思っていた業務や進め方をゼロベースで見直す
- ・「何のためにやるのか」「どうやって改善するのか」をみんなで考えて共有する など

#### モデル保育所で取り組んだ事務改善事例

#### 実践した事務改善Point

社会福祉法人 清泉福祉会 清泉愛育園	3	IC	C	
社会福祉法人 一二三会 いずみ保育園	5	IC	C	
社会福祉法人 ぼだいじ福祉会 ぼだいじこども園	7	IC	C	G
社会福祉法人 松阪仏教愛護園	9	C	G	
津市安濃保育園	11	C	G	
松阪市立 第二保育園	13	C	G	

## ICTを保育園の業務に活用するヒントを共有

～モデル園が集まってワークショップを開催～

モデル保育園で業務改善を進めるにあたって、各モデル保育園の状況に応じてICTの活用を検討しました。その中で、「他のモデル保育園では、ICTをどのように活用しているのかわかりたい」という声があったため、モデル保育園が集まって「ICT活用共有会」を開催しました。

保育業務を支援する同じアプリを導入していても、保育現場の状況によって使い方はさまざまです。共有会では、各保育園で活用している機能を紹介し、自園で取り入れられそうな機能はあるか、自園にあった活用の仕方はどのようなものか、アプリを導入するメリット・デメリット、使い勝手はどうか、など活発に情報交換を行いました。

これまで複数の保育園の保育士が集まって業務改善に向けた情報交換をする機会はなかったこともあり、ICTの活用以外にも保育園の業務の見直し等についても話し合い、多くのヒントを得ることができ、各モデル保育園ではICT化や業務改善に向けたさらなる取組を進めていくことができました。



## コミュニケーションの活性化

～専門家からリーダーシップを学ぶ～

PickUp



今回の事業では、各モデル保育園の課題に応じて、解決に向けたアドバイスを行う専門家を派遣しました。

その1つとして、ぼだいじこども園では、「職場のリーダーとして指導の仕方が難しい」「働きやすい職場にするためにも、職員間のコミュニケーションをもっと円滑にしていきたい」という声があがったため、社会保険労務士を招いて、「リーダーシップ」と「ハラスメント」について、法律の知識を学

ぶとともに、動画を見ながら事例を検討する場を設けました。

検討の場では、「気づかないうちに相手を傷つけてしまっていないか」「人により受け取り方が違うことに気をつける必要がある」「指導とハラスメントの区別の違いが難しい」などの意見が出され、保育園ならではのハラスメントや指導方法について、普段からどういった点に気をつけるのかなど、さらに深く意見交換を行いました。

## 社会福祉法人 清泉福祉会 清泉愛育園



動画でも紹介しています

### 保育園の概要

津市新町一丁目8番13号

園児数 108名

職員数 40名(うち保育士26名)

園長 安藤 智子 先生



園長 安藤 智子 先生

清泉愛育園は「笑顔と感謝、愛がいっぱいあふれる保育園」をモットーに運営しています。今回、三重県の事業に応募したのは、卒園児の保護者から応募を勧められたからです。

もともと職員が働きやすい職場になるよう努力はしていましたが、コロナ禍で職員間の交流が希薄になりかけていたので、「それを何とかしたい！」という思いもあり応募しました。

以前からICTは導入していましたが、さらにICT化が加速したことで、書類作成に関わる業務が軽減されました。また、職員同士、自分の思いを伝えあうことの大切さを再確認できたことで、「みんなでよりよい保育園を作る」という意識が強まったと思います。

この取組を通じて、今まで見えなかったものも見てきたことで、さらに働きやすい職場作りが進んだことが園長としてとても嬉しかったです。

園長からモデル園に応募したと聞いて、当初はプレッシャーも感じました。また、どういった活動になるのか自分自身でイメージができず不安でもありましたが、一方で「チャンスでもある！」と思い、今回の事業を通じて個人的に取り入れてみたかったWeb会議などのリモートを取り入れることもできました。

「良いものは残しつつ、さらに良くなるように追求しよう。もっと効率的にできる方法はないか考えていこう！」と日々の業務の“当たり前”を見つめ直すきっかけにもなりましたし、リーダーという立場上、自分の業務や役割がより明確になったと思います。

園全体として自分たちでより良くしていこうという士気も高まったと感じています。

さまざまな意見をまとめるために話し合いの時間は必要になってきますが、乗り越えた後に得るものは大きいですし、事業終了後も、働き方を見直す取組は継続していきたいと思っています。



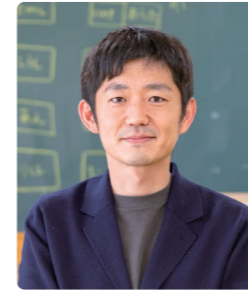
辻 綾香 先生

## 清泉愛育園での取組事例

利用機能(ツール) タブレット(各教室に配備)等

活用したICT機能  
登降園管理、保護者連絡、帳票作成等

改善成果  
電話対応業務減少、用紙購入費削減、コミュニケーション改善等



坂本 岳史 先生

### ICT導入後のメリット

ICTを導入したことで、書類作成などの時間が目に見えて減少し、職員に余裕が生まれ、子どもと関わる時間が増加しています。また、ペーパーレス化を進めたことで、印刷コストが大幅に削減し、職員間の情報共有もスムーズになって連絡ミスも減っています。保護者との連絡にもアプリを活用することで、電話中心だった時よりも対応がスピーディーになり、また、アプリで配信している「園からのお知らせ」の保護者の開封率が非常に高くなっていることから、紙で配布していたときよりも、連絡事項が保護者により伝わっていて、効率的・効果的だと感じています。

#### 取組事例 ①

### IC アプリの活用に向けた業務の見直し

睡眠チェック表など紙に記入している作業を中心に、アプリを活用できる業務の洗い出しを行いました。これまでもアプリを活用してきましたが、改めて「使えていない機能」「使っていききたい機能」を精査し、クラスごとにどのような使い方ができるかなどの検討を進めました。検討したことは、職員ミーティングで共有して意見交換を行っており、今後は、それらの意見を参考にしてアプリのさらなる活用を進めていきます。



#### 取組事例 ②

### IC ICT簡易マニュアルの作成

ICTが苦手、慣れていない職員でも、簡単に操作できるように、園独自のICTマニュアルを作成しました。ICTを業務に活用していくためには、苦手な職員も怖がらずに機器に触れるようになっていくことが大切です。マニュアルには「間違ってもいいんだよ」という言葉を入れて、安心して取り組めるように工夫しました。

#### 取組事例 ③

### IC アプリを利用した情報共有

職員会議の決定事項を、アプリを利用して職員に配信、共有する仕組みを構築しました。会議資料や園内の連絡事項もPDF化して配信するようにし、職員は各クラスに設置してあるタブレットや、スマートフォンでも閲覧できるように工夫しています。職員室には紙ベースの資料も設置しており、そちらでも確認できるようにしています。

#### 取組事例 ④

### C 職員間のより良い関係

職員間のコミュニケーションを円滑にするために、職員が得意なことや好きなことを記入した「職員紹介」を制作し、職員室の入口に掲示しました。良かったことやステキだなと思ったことを伝え合う「褒める会」の実施を検討するなど、これまで以上に職員間の横のつながりを意識しながら、新しいコミュニケーションづくりをめざしています。



#### 取組事例 ⑤

### C 「困っていること」チェックシート

職員がクラス運営などで困っていることを抱えこんでしまうことがないように、相談窓口の設置や、Webフォームに相談したいことを入力できる仕組みなど、困っていることを見える化し、誰もが相談しやすい環境づくりに取り組んでいます。



# 社会福祉法人 一三三会 いずみ保育園



動画でも紹介しています

## 保育園の概要

四日市市三重6丁目129番地

園児数 108名

職員数 36名(うち保育士33名)

園長 宇佐美 直樹 先生



園長 宇佐美 直樹 先生

いずみ保育園では、年齢に応じて聞く力を育てることや、食育に力を入れています。昨年度、三重県のホイクボス\*事業で、職員の思いや考えを日頃の運営に積極的に取り入れることで、働きやすい職場づくりのきっかけができたこともあり、今年度も応募しました。

時には園長として耳の痛い意見もでることがありましたが、職場の活性化や働きやすい職場づくりは園長の使命であると思い、取り組んできました。

今年度はICT化によって業務軽減も進んできました。また、会議後に各クラスでの話し合いを重ねる中で、少しずつではありますが、職場内でのコミュニケーションが進んできていると感じています。

日々の忙しい業務の中で、新しいことに取り組むことは容易ではありません。しかし、こんな時だからこそできる「保育の見直し」「働き方の見直し」を進めることが必要かもしれません。専門のアドバイザーの方の助言を受けながら、職員同士の話し合いをもとに職場環境の改善に取り組むことは決して無駄にはならないと思います。

\*保育所における部下の仕事と家庭の両立等を応援する「イクボス」の取組

私はまだ経験が浅く、日々目の前の業務をこなすので精いっぱいでした。この取組を始めてから他の先生方の意見や考えを聞いたり、保育園がよくなるためにどうすればいいか、よりよい保育とは何かについて考える時間が増え、一歩引いて全体を見ることができるようになりました。全体を見られるようになったことで、子どもたちの周りの環境だけでなく、自分の置かれている環境を知ることができ、新たな責任感が生まれ、以前よりも仕事にやりがいを感じるようになりました。

ICTを導入するにあたっては、当初は取組メンバーの中でも不安やとまどいの方が多かったのですが、一つ一つ課題を解決していく中で、順序を踏んで進めていくことが大切だということを知ることができました。会議を重ねていくことで、自分の意見を少しずつ伝えることができるようになり、この経験をきっかけに成長できて良かったと思っています。



印田 桃子 先生

## いずみ保育園での取組事例

利用機能(ツール) タブレット等

活用したICT機能

登降園管理、保護者連絡、アンケート、成長記録等

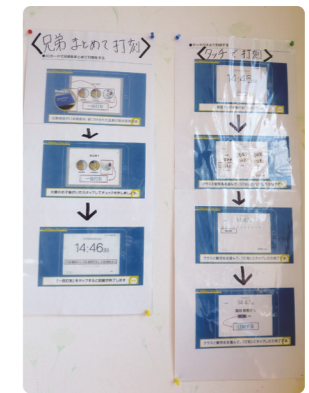
改善成果

電話対応業務減少、保護者の評判UP、連絡効率化、手書き業務削減等

### 取組事例 ①

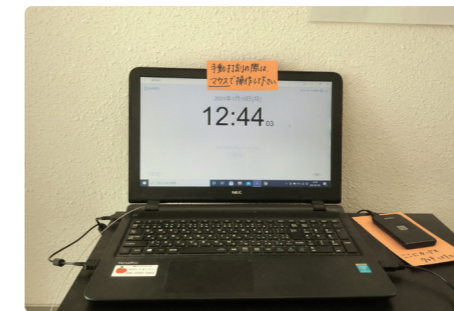
#### IC C アプリによる登降園管理

登降園管理にアプリを導入したことで、園児の出欠が一目で分かるようになり、欠席の内容もリアルタイムで把握できるので、伝達ミスがなくなりました。また、アプリは出席簿に連動しているので、手書きで出席簿を作成する手間がなくなり、欠席に関する電話対応も減ったことで、子どもたちと向き合う時間が増加しています。保護者からも「スマートフォンで簡単に操作、連絡できて便利」との声が届いています。今までは担任しているクラスだけ出欠を確認していましたが、保育士同士が他のクラスの出欠についても配慮や気配りができるようになっています。



### 取組事例 ②

#### IC 保護者へのお知らせ



アプリの一斉送信機能を通じて「保護者へのお知らせ」を行うようにしたことで、保護者に伝えたいこと、クラス別・個別にお願いがあることなどが、すぐに伝えられるようになりました。アプリの既読の確認機能を活用して、「お知らせ」を見ていない保護者には、登降園時に直接声掛けをして伝えるとともに、スマートフォンを持っていない保護者には、これまでどおり紙でお知らせを渡すようにしています。職員は「一斉送信機能」を使用するようになってから、タブレットを業務に積極的に活用するようになり、それに伴い、業務軽減への意識が高まってきています。

### 取組事例 ③

#### IC アンケート機能の活用

アプリのアンケート機能を、運動会や行事の参加人数の把握などに活用することで、これまで、保護者に用紙に記入してもらったものを回収し、集計をしていた手間が省略されるとともに、結果をすぐに確認できるようになりました。

今後はアンケート機能をさらに多様な場面で活用していきたいと考えており、例えば、保育園の方針に対する保護者の意見をアンケート機能を通じて集めて参考にするなどの検討をしています。



### 取組事例 ④

#### IC 身体測定等の記録作成

これまで毎月ノートに記載して管理していた園児の身体測定の記録について、アプリを活用した記録作成に移行する準備をしています。その他の書類作成についても、順次アプリによる作成に移行し、業務時間の削減につなげていきます。

# 社会福祉法人 ほだいじ福祉会 ほだいじこども園



動画でも紹介しています

## 保育園の概要



津市南中央10-18

園児数 133名

職員数 40名(うち保育教諭32名)

園長 永瀬 時久 先生



総務 永瀬 公輔 さん

ほだいじこども園は、担当制保育を導入しており、一人一人の子どもたちが安心感をもって生活できるように、家庭的な保育を行っております。

今回大きく業務改善できたのは、休憩時間を各クラス均一に取得できるように仕組化したことです。取組が進むにつれて、職員一人一人の意識が変わり、業務時間内に必要な業務を終わらせることで、十分な休憩時間を確保できるようになりました。

また、課題を全員で共有することにより、現場での課題について、自ら進んで取り組む先生が増えたように感じます。まだまだ解決すべき課題はありますが、一緒に働く職員が課題を共有し、考える時間ができたことは非常に良かったと思っています。

本来の働き方改革は、自分たちが楽をするのではなく、より良い職場環境づくりを行うことで、職員一人一人の保育の質向上につながり、結果的に子どもたちにとって良い教育・保育になることだと思っています。一人でも多くの職員が「働くことが楽しい!」と感じる職場をめざして今後も取り組んでいきたいと思ひます。

園長から話を聞き、初めてのことでしたので少し不安はありましたが、保育の質の向上、業務改善など今の私たちにとても大切なことなので、しっかりと取り組みたいと思ひました。以前は、日々の業務の中で困ったことや問題点はあったのですが、困りながらもクラス内で解決したり、解決できると思ひ込んでいたこともありましたが、今は園全体に問題提起し、周りにも知ってもらい、解決していくべきだという考えに私自身が変わってきました。一緒に働く職員同士も、この取組を通じて、些細なことでも気づいたことは他の人に伝え、ともに考えて良い方向へ進めていけるようになってきたと感じています。まだ改善できていないこともたくさんあるのですが、職員の問題提起により、休憩時間の十分な確保など、解決できたことも増えてきています。今後もより良い保育につなげていけると信じて取り組んでいきたいと思ひます。



広中 千秋 先生

## ほだいじこども園での取組事例

利用機能(ツール) タブレット、モニター、ホワイトボード等

活用したICT機能  
保護者連絡、帳票作成、自動音声応答 等

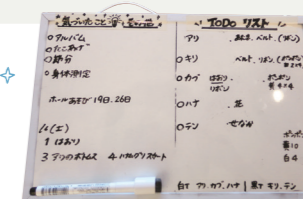
改善成果  
コミュニケーション改善、保護者からの評判UP、事務経費削減 等

### 取組事例 ①

#### IC ホワイトボードで見える化



クラス担任同士が作業内容を共有できる「TODOリスト」をホワイトボードを使って作成しました。その日のうちに完了したい作業や、お互いに気づいたことなどを記入しておくことで、お互い相談しやすくなり、協力して作業を進めていける体制となりました。また、ホワイトボードに記入することで、言いにくかったことも伝えることができるようになり、また、職員もホワイトボードに記入することで頭の整理につながるとともに、クラスでの役割分担も明確になりました。



### 取組事例 ②

#### IC 配布資料ペーパーレス化

保護者へのお知らせなどの配布資料のペーパーレス化に取り組みました。これまでは印刷や折りたたむ作業に時間が取られ、ミスにより刷り直しをすることもありましたが、保育園入口にモニターを設置してQRコードを表示し、保護者に読み取って確認してもらう方法に変更することで、保護者への配布資料の完全ペーパーレス化が実現し、職員の業務が大幅に削減されました。



### 取組事例 ③

#### IC 契約書類のペーパーレス化

保護者との契約書類について、電子署名を導入し、ペーパーレス化に取り組みました。契約書類の作成には多くの時間を要しており、書類を保管するスペース確保も課題でした。ペーパーレス化を進めたことで、用紙代や印刷用インク代の削減になるとともに、保護者からも手続きが簡素化され、書類を紛失するリスクもなくなったと好評です。

### 取組事例 ④

#### IC 自動応答システムの導入

保護者等からの問い合わせに自動応答システムを導入しました。園にかかってくる電話内容を精査したところ、報告だけで完了する内容が8割程度を占めており、自動応答システムで対応が可能であると判断しました。

### 取組事例 ⑤

#### G 卒園アルバムの見直し

保育園で作成する卒園アルバムの見直しを進めています。卒園アルバムの目的を改めて職員全員で考え、子どもたちや保護者に満足してもらうにはどのようなアルバムが良いのかを検討しています。その他にも、これまでは当たり前と考えていた業務やそのやり方なども、ゼロベースで見直すことが大事であると考えています。



# 社会福祉法人 松阪仏教愛護園



動画でも紹介しています

## 保育園の概要



松阪市愛宕町2丁目63番地

園児数 127名

職員数 38名(うち保育士31名)

園長 梅森 元覺 先生



副園長 阪井 直子 先生

松阪仏教愛護園は大正13年に創立され、創立当初から仏教団に支えられてきた園です。昭和27年に社会福祉法人になってからも朝のおまじりは欠かしていません。

今回応募したきっかけは、昨年度のホイクボス<sup>※</sup>の報告会に園長補佐が参加したときの話を聞き、当園でもみんなで改善点を話し合う良い機会になると思い、応募いたしました。

今回の取組を通じて、職員それぞれの考え方をより理解できるようになりましたし、書類を書く時間を自分たちで決めて実行したり、制作物を見直してコンパクトにしてみたり、改善意識をもって進めていけるようになりました。

数年前に休憩時間の見直しを行い、少しずつICT化も進めてきました。新型コロナウイルスの影響もあり、行事も含め保育全般を見直すことができましたと思います。

今回の事業をきっかけにして、みんなが和気あいあいとした雰囲気の中で保育ができるようになるにはどうしたらいいか、職員全員で取り組んでいこうと思います。

<sup>※</sup>保育所における部下の仕事と家庭の両立等を応援する「イクボス」の取組

当初は改善が本当にできるのか？と期待もないまま始まった状態でした。取組を進めていく中で、色々な人の意見があり、思いを受け入れていかないといけない、ということに改めて気づかされました。みんなで意見交換していく中で、他のクラスのことや園のことを知る時間となり、園全体がよりよくなるためにはどうしたらいいかを考える意識が持てるようになっていきました。以前よりも声を掛け合うようになり、意見や思いを言いやすくなったと思います。また担当クラス以外のことにも気づくことが多くなりました。業務削減が進む中で、時間に余裕を持って過ごせるようになり、勤務時間内に書類を書く時間も確保できるようになったので、今まで改善したいと思っていたことが、みんなのアイデアでどんどん改善されていったと思います。



宇田 弥生 先生

## 松阪仏教愛護園での取組事例

利用機能(ツール)  
園内の既存物品を活用

改善成果  
書類作成時間確保、事務の効率化、業務の見える化 等

### 取組事例 ①

#### C 「働きやすい職場環境」に向けた課題の共有



「働きやすい職場環境」を実現するために、職員がどのような課題認識を持っているかを把握し、全体で共有することが第一歩になると考えました。そこで、職員を対象に「働きやすい職場環境にするには」というアンケートを実施し、アンケート結果をカテゴリー別に仕分けして、さらに「すぐに実施できるもの」「検討が必要なもの」等に分けて、職員全員で共有しました。また、クラス単位でも「改善していきたい業務」を話し合い、小さな改善を一つずつ実行しています。

### 取組事例 ②

#### C 書類作成時間の確保

「勤務時間内に書類を書く時間を作ることを」目標に、職員間でさまざまな工夫を考え、実践に取り組んでいます。例えば、一人担任のクラスには複数担任のクラスから応援に来てもらう時間を作ったり、1日の中で書類作成ができる時間を職員同士で調整するなどの工夫を行うことで、みんながまんべんなく1日45分の書類作成時間を確保できるようになりました。これにより、書類作成に集中できるようになり、職員の気持ちにも余裕を持てるようになりました。



### 取組事例 ④

#### G 行事の見直し

行事の準備に要している時間を軽減させるために、「いつから準備を始めればいいのか」「いつまでに何を決めるのか」「職場全体で共有するタイミングは」など、行事開催に向けたスケジュールの見える化を進めました。また、行事そのものの見直しにも着手し、内容、日程、開催場所などの見直しを、一つずつ丁寧に進めています。

### 取組事例 ⑤

#### G 制作物の見直し

行事などに関連した制作物に多くの時間がかかり、子どもたちと遊ぶ時間が取れない状況を改善するため、制作物に関する見直しを行いました。例えば、これまで毎月制作していたものを2ヶ月に1回としたり、過去に使った作品の再利用を積極的に行ったりするなど、制作にかかる時間を軽減するルールを作成しました。



# 津市安濃保育園



動画でも紹介しています

## 保育園の概要



津市安濃町曾根710-2

園児数 164名

職員数 59名(うち保育士52名)

園長 井田 真紀 先生



園長 井田 真紀 先生

三重県からの案内を見て、保育士間のコミュニケーション不足や仕事の属人化によるモチベーションの低下など、まさしく自園の課題であると感じていたことを解決できるかもしれないと思い応募しました。

当初は会議が増えた負担感を感じている保育士と、解決の糸口を見つけない園長・主任との思いに温度差がありました。園の関係者でない方々に指導いただくことで、課題の核心に近づくことへの不安感はありませんでしたが、それ以上に今まで恒常的に行っていた業務を違った視点で見直す期待感の方が大きかったので、諦めずに取り組んでいこうと話しました。

取組を進めていくうちに、日頃職員で話し合う機会の少ない業務に着目し、課題を洗い出していく中で、活発に意見交換が行われるようになり、改善につなげていけたのは本当に良かったと思っています。今回の取組を継続しながら、職員が同じ方向を向いて保育を進めていきたいと思っています。

園長が日頃から職員の業務量や仕事の属人化を気にしていたこともあり、この取組を通じて何か改善できるきっかけが見つかるのではないかと思います。前向きに取り組んでみようと思いました。

今まで個別に相談事を聞いたりすることはありましたが、みんなが揃って思いを知る機会がなかったので、「何のためにやっているのか」を共通認識できたことで、積極的に会議に参加してもらえるようになり、目的意識を持って進めていけたと思います。

先が見えないことにはどうしても不安があり、当初は「どこに向かっているのだろう」「この時間を他のことに使いたい」という思いが見え隠れしている様子も感じられましたが、回を重ねるごとに取組の意義を理解し、やらされているのではなく、自分たちで進めていくことの大切さを感じられるようになっていけたことが嬉しかったです。



前川 敬子 先生

## 津市安濃保育園での取組事例

利用機能(ツール)  
ホワイトボード、業務用カメラ等

改善成果  
事務の効率化、残業時間の削減、コミュニケーション改善等

### 取組事例 ①

#### G 会議の見直し



星合 佳奈 先生

園内会議に関して、「決まったことがいつの間にか変更されている」、「時間が長い」、「内容が全員に行き届いていない」などの課題があったため、会議の目的(そもそも各会議は何を決める場なのか)を全員で共有し、内容や時間を見直しました。例えば、会議前に話し合う内容を確認して事項書に記載するようにしたり、議事を始める前に、この議題は「決議事項」か「報告事項」かの確認を行うようにしました。また、「決議事項」は最後に議決内容を振り返り、再確認するようにしています。

「会議とはどういうものか」を徹底的に話し合ったことで、職員も「自分たちが自発的に関わり、決議するのが会議である」という意識が変わり、より建設的に意思決定ができるような場になっています。



### 取組事例 ②

#### G 写真撮影のマニュアル作成

誕生会用に撮影していた写真について、これまで撮影方法やルールが統一されておらず、何度も撮り直しになるなど、完成までに時間のロスが発生していました。

そこで、職員に写真撮影に関するアンケートを実施して意見を集約し、写真の背景や帽子・服装・表情などのルールを決めていきました。

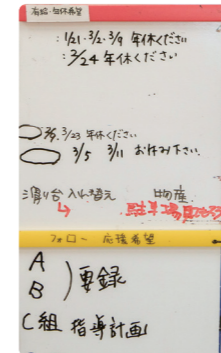
また、撮影用のカメラやSDカードが少なく、撮影したいタイミングで使えないという声があったため、カメラとSDカードを増やし、効率よく写真撮影できるようになるとともに、撮影ルールを作成したことで手戻りもなくなりました。

### 取組事例 ③

#### C ホワイトボードで業務見える化

業務時間内に作業が終わらないと思っても、他のクラスの先生に頼みづらく、個人で抱え込んでしまうことが多かったため、業務や休暇をホワイトボードに記載して「見える化」し、互いにフォローできる体制づくりを行いました。

業務が「見える化」されたことで、フリーで対応できる保育士の時間をより有効に活用できるようになり、業務量も均等化されました。園としても各保育士の業務量を把握しやすくなり、業務がたまっている保育士に積極的に声がけを行うことで、業務時間内に仕事が完了できるようになりました。



### 取組事例 ④

#### G 健康チェックの見直し(進行中)

園児の健康チェックの園長への報告を、業務時間後に口頭で行っているため、報告の順番待ちが発生し、時間のロスになっています。そこで、報告するルールや、報告のタイミングや内容など、ゼロベースで見直しを行っています。

また、看護日誌と内容が重なっている項目は報告事項から除外するなど、健康チェックの目的を果たすために必要な項目を整理し、業務軽減に向けた改善を進めています。



# 松阪市立 第二保育園



動画でも紹介しています

## 保育園の概要



松阪市泉町1734番地

園児数 84名

職員数 23名(うち保育士18名)

園長 岡田 小百合 先生



園長 岡田 小百合 先生

仕事の目処がつかず、遅くまで残っていたり、休みや休憩もとりにくい現状がありましたので、少しでも働きやすい環境になればと思って、三重県からの案内を見て、やってみようかなと思い応募しました。

第二保育園のメンバーは、相手を思いやる優しさや温かさがありますので、もっと良い方向に向かっていけると信じて進めていきました。取組が始まってからは、職員一人ひとりが時間を有効に使って、段取りよく仕事をするを意識したり、他の職員を気にかけて、協力し合うようになったと感じています。公立保育園ですので4月には異動があります。今回の事業で学んだことを、新たなメンバー、新たな園で取り組み、積み重ねていくことで、松阪市の全保育園が働きやすい職場になってくれたらと願っています。

県の事業に取り組むことになったと聞いたときは、具体的にどんな風に進めればいいのかと戸惑うこともありましたが、みんなの働き方がさらに良い方向へ変わっていかばいいと思いました。

取組を進めていく中で、働き方の意識が変わってきました。仕事に終わりではなく、あれもこれもしたいと思うことがありましたが、仕事を整理していく中で、見通しを持ち、限られた時間を効率よく使えるよう意識が持てるようになってきました。

職員間で会話をする時間も増え、保育のことを相談したり、他のクラスの活動を知る機会にもなりました。働き方だけでなく、改めて保育のことを振り返ったり、学び合ったりできたことで、職員みんなの気持ちがつながったように感じられました。



横谷 清香 先生

## 第二保育園での取組事例

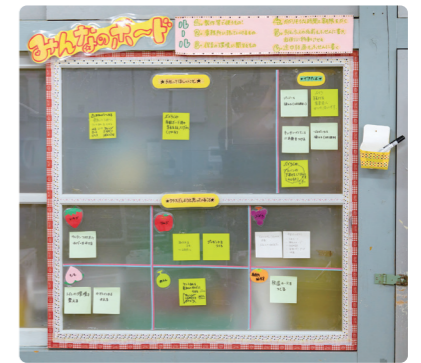
利用機能(ツール)  
ガラス戸を活用したボード等

改善成果  
コミュニケーション改善、残業削減、業務の効率化等

### 取組事例 ①

#### C 「みんなのボード」を使って助け合い

日中は保育に向き合い、子どもたちの降園後は書類作成、環境整備などで、なかなか定時に帰れない現状がありました。定時に仕事を終わらせて帰宅するためには、業務の見直しとともに、他のクラスの状況を園全体で共有して、みんなで協力できる体制としていくことが大切です。そこで、「手伝ってほしいこと」「クラスでしようと思っていること」などを貼り出すことができる「みんなのボード」を職員室に設置し、手伝いの必要なことが一目で分かるようにしました。これにより、お互い手が空いているときに助け合い、個人で仕事を抱え込むことが少なくなり、定時に帰宅できる日が増えてきました。また、各自がそれぞれの仕事内容を整理したり、早めに行事等の段取りをする意識を強くするなどの効果にもつながっています。



### 取組事例 ②

#### G 一年間の保育のめやす(年齢ごと)



初めて担当する年齢クラスの場合、一年間の見通しが分からずに悩んでしまうことがあったため、年齢ごとに、保育のめやすを四半期に分けた冊子を作成しました。

子どもたちに経験させたいこと、保育者の関わり、大切にしたいことなどを整理するきっかけにもなりました。これを活用して各自が抱えている悩みや不安を少しでも解消して、質の高い保育につなげていきたいと思っています。

### 取組事例 ③

#### G 「えがお あふれる たのしい保育」(あそびのレポーター)を作成

取組事例②で保育のめやすを作成したことにより、「あそびのだいじさ」を改めて感じ、「保育者として引き出しを増やしたい!」「もっと子どもたちと一緒に楽しめるあそびのレポーターを増やしたい!」という意見が出ました。そこで、「発達にあったあそび」をみんなで協力して調べ、学びあう取組を行いました。調べたことは表にまとめ、いつでも見ることができるよう掲示をし、日々の保育の手助けとなっています。

